

日本語談話における沈黙の世代差

—— 沈黙が挿入される統語環境をめぐって ——

Differences of Generation on Silence in Japanese Discourse

—— Concerning the syntactic environment of silence insertion ——

TA Thanh Huyen*

(要旨)

日常会話で、発話者は言語表現の他に非言語表現も使いコミュニケーションをする。非言語表現とはうなずきや視線などであり、沈黙もそのうちの1つである。近年、沈黙に関する研究が次第に増えてきた。しかし、従来の研究は主に沈黙の意味と機能について分析したものが多く、統語論の観点からの分析はほとんど行われていない。

本稿では、談話における沈黙を対象とし、沈黙が挿入される統語環境及び世代差を明らかにしたい。その際、20代と60代の談話を対象とする。まず、20代と60代の談話における沈黙が挿入される統語環境を考察し、次にその統語環境の比較を行う。それによって、沈黙の世代差を検証する。その結果、①沈黙が挿入される統語環境においては、20代に比べ60代の方が限定されること、②60代の沈黙は独立性が高い構成素の直後に挿入しやすいが、20代では挿入しにくい、という世代差が判明した。

【キーワード】 談話、沈黙、統語環境、世代差、包含関係

1. はじめに

日常の会話では、沈黙は次のような言語環境に挿入される。次の会話は60代同士のものである。

- (1) 000325C あのう、【ポーズ】説明がうまくできないんだけど
000326K うーん。《沈黙》
000327C こう、ちょっと、こう《沈黙》頭にね
000328K うん
000329C 熱の
000330K うーん。
000331C あの、帽子かぶるんですよ。で、あったかくして
000332K うん。《沈黙》

(1) では、話者Kと話者Cが髪の染め方について話している。発話番号000327を見ると、話者Cが「こう、ちょっと、こう」と発話した後に沈黙が挿入されるのが分かる。なぜこの位置に沈

* 山口大学大学院東アジア研究科博士課程3年 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

黙が挿入されるのであろうか。

000327の「こう、ちょっと、こう」は、熱が出たときに被る帽子を実際に被ろうとしているジェスチャーとともに発話されたものである。従って、次に来る「頭にね」という言語表現との間には、大きな切れ目があると考えられる。このように何らかの切れ目がある場合では沈黙が挿入されやすい。しかし、「説明がうまくできないんだけど」のような場合、「説明がう《沈黙》まくできないんだけど」のような発話は、あまり自然だとは言えない。おそらく「うまく」という単語の中には切れ目がないためだと考えられる。そうすると、どのような切れ目がある場合沈黙が挿入され、どのような場合挿入されないのか、という問題が生じる。しかも、沈黙は発話者が発話の途中で挿入するものであるため、発話者は常に線的なシンタグマティック (syntagmatic) な関係を認知しているはずである。従って、どこにでも挿入することができるというものではなく、沈黙を挿入する直前の構成素の種類を知覚して挿入していると考えられる。そこで、沈黙の直前の構成素の種類を観察することによって、沈黙の統語的な性質を解明できるのではないだろうかと考えられる。

また、沈黙に関する先行研究を見ても、意味または機能の面からのアプローチに始終しており、統語的なアプローチは見られない。本稿は、前者の考え方を否定するものではなく、別の観点から沈黙の挿入に関する新たなルールを設定しようとするものである。加えて、そこに世代差があるのかどうかについても検証していく。

2. 先行研究

本稿では談話における沈黙および沈黙の世代差に分け、それぞれに関する先行研究を振り返る。

2.1 沈黙について

談話における沈黙についての研究はいままでいくつも行われている。

Hirouchi(1996) は、現代の日本人の若者における沈黙の解釈がどのような文化変容と関連があるかを、Milton Wayne (1973) の “The meaning of Silence in Conversations in Three Cultures”¹の論文結果と対照し、談話における沈黙の意味（「上下関係」「親疎関係」「うちと外との関係」「家族関係」）について分析している。以下のように述べている。

- (2) “In short, ‘silence’ is no longer a means of showing respect towards the addressor, but is become a means of expressing personal identity.” (cf. Hirouchi(1996 : 198))

花村 (2015) では、談話における話題転換型を追求するなかで、沈黙が話題転換表現の一つの要素であることを明らかにしている。花村 (2015 : 88) には、以下の表が掲載されている。

表1 話題転換の型ごとの話題転換表現の使いわけ

話題転換の型	使われやすい表現	使われにくい表現
新出型	終了の沈黙	接続表現
再開型	接続表現	言いよどみ
前提提示型	言いよどみ、開始の沈黙	終了の沈黙

花村（2015：84）では、「〈沈黙〉は、終了の沈黙と開始の沈黙にわけられる。終了の沈黙は先行話題の終了部に現れるもので、開始の沈黙は転換後の話題の開始部に現れるものである。接続表現や言いよどみのような開始表現のあとに出てくれば開始の沈黙であり、それ以外の沈黙はすべて終了の沈黙として区別されている。」と述べている。

堀（2011）は大学4年生男女を研究対象とし、初対面の会話における沈黙がコミュニケーションに与える影響について研究をした。堀（2011：107）の沈黙の定義は、以下の通りである。

- (3) 「発言権をとろうとする人がいなく、音がシーンとしており、時間にして2秒00以上であること」

堀（2011）の研究では、以下のことを指摘している。

- ①沈黙時間における性差（女子より男子の方が沈黙時間が長い）
- ②大学生が沈黙への意識を持つこと
- ③沈黙が人間関係に影響を与えること

重橋（2017）は大学生における沈黙に対する捉え方の尺度を説明した。重橋（2017）は20代までの女子大学生を調査対象とし、先行研究から参考にした65項目の質問紙調査を行った。結果としては、①二者関係の否定的意味づけ、②二者関係の肯定的意味づけ、③考えを整理するための沈黙、④一人の時間としての沈黙、という沈黙の捉え方の尺度における4つの因子が得られている。

2.2 沈黙の世代差について

日本語の沈黙の世代差についての研究はWong Ngan Ling（2005）などが挙げられるが、管見のかぎり、数はそれほど多くない。

Wong Ngan Ling（2005）では、日本社会のコミュニケーションにおける沈黙の使用が、時間軸（世代に渡って）に沿ってどのように変容するかを検討するため、2つのアンケートと1つのインタビュー、つまり質的調査と量的調査が行われた。ここでは、時間が変化するとともに沈黙の意味と機能も変容すると指摘している。この変容は以下のように記述されている。

- (4) “Silence, which they do not use purposely to communicate, appears somewhat natural to the Prewar group and the Postwar groups; this is quite different from the younger generation, particularly the male Infochild, who uses inscrutable silence and noticeable

silence quite often and silence's persuasive power is recognized more by this younger generation.”(cf. Wong Ngan Ling (2005 : 246))

- (5) “In a non-close relationship a shift in method of expression can be notices from the Prewar group to the Infocchild. The former prefers to use indirect methods, written words or the inscrutable method (with no physical actions), or silence to express emotion to others, whereas the latter uses a more direct method (spoken words and bodily actions).”(cf. Wong Ngan Ling (2005 : 247))

以上のように、これまでの沈黙に関する研究は、主に沈黙の意味や機能に関するものである。沈黙の世代差についての研究も行われたが、これも意味と機能の面から分析したものである。従って、そもそも沈黙がどういう統語環境に挿入されるのかについての研究が、管見のかぎり見られない。さらに、その統語環境から見た沈黙の世代差に関する研究も同様に見られない。それゆえ、沈黙を統語的に分析することは必要だと考えられる。

3. 本稿の立場

前述したように、まず本稿では、沈黙という現象を、挿入される統語環境を観察することによって分析する。具体的には、沈黙の直前にどのような要素が来るのかを見ていく。

しかし、ここで沈黙の直後についても注意しておきたい。沈黙の直後に目を向けると、発話権の交替が起こる場合と起こらない場合が見られる。例えば、次の例を見られたい。

- (6) 000043O じゃあ、月曜日に行こう。
000044I うん。〔無言+動作：手帳を確認〕
000045O 月曜日はなにもないか？なにもない？本当に？↑〔無言+動作：鼻づまり〕学割はもう取って財布に入れてあるから。
000046I おう。《沈黙》
000047O それだけはしている。ははは〈笑い〉

(6) では、000046Iの「おう。」の直後で沈黙が挿入されるが、その直後で話者Oに発話権が移動している。このような発話権の交替が起こる直前の沈黙は、どちらの話者の発話権のもとに発せられたものであるか不明である。従って、本稿では直後に発話権の交替が起こらない沈黙のみを分析対象とする。

また、談話では、沈黙と同様の無言状態が次のような文脈で挿入されることもある。

- (7) 000047O それだけはしている。ははは〈笑い〉。
000048I はやい。
000049O そうそう、切符を、〔無言+動作：書く〕切符を

- 000050I ん。
 000051O 生協で買う。〔無言+動作：書く〕
 000052I ん。
- (8) 000077I スマートフォンでうまくいかない、かった。
 000078O あ、そうなんじゃ。
 000079I うん。〔無言+動作：鼻づまり〕
 000080O けっこう、うまくいかん、おおいかね。[[? ? ?]]
 000081I [そうだよね]。なんでいかん分からな
 いけど

(7) では、話者Oと話者Iは切符を買うことについて話している。話者Oの発話「そうそう、切符を」の直後に無言があるが、同時に「書く」という動作も行われている。ここでは、これを「〔無言+動作：書く〕」という表記で表している。ここでの無言状態は、「書く」という作業が原因で起こっているであろう。

また、(8) では、話者Oと話者Iはスマートフォンで申し込んだが、うまくいかなかったということについて話している。話者Iが「うん」を発話した後に、無言状態と鼻づまりが共に挿入される。ここでは、鼻づまりという生理的な原因によって、無言状態が挿入される。

以上の(7)、(8)では、いずれも言語以外の事柄が原因となって無言状態が挿入され、本稿ではこれらを沈黙とは考えないことにする。

そこで、本稿では、「沈黙」について次のように定義しておく。

「沈黙」の定義：

沈黙とは、発話者が1秒以上で、4秒未満発話していない状態を指す。ただし、発話はされていないが、生理的な音声（ため息、咳、唇をならす）や動作音（紙に触るときや書いたりしたときに出る音）が伴う場合には、沈黙とは捉えない。

本稿の目的は、統語的・社会言語学的な観点から日常会話における沈黙の統語環境とその世代差を検討することである。それゆえ、本稿では、まず上で定義される沈黙を対象とし、統語的な観点から、日常会話における沈黙の統語的位置を明らかにする。また、それを世代間で比較することによって、沈黙には世代差があることを主張する。

4. 調査要領

日本語談話において沈黙が挿入される統語環境、及びその世代差を分析するため、会話調査を実施した。

会話調査の要領は、表2の通りである。

表2 会話調査の要領

会話調査	話者の氏名	話者の性別	話者の年齢	調査実施日
データ Y1	I O	女性 女性	20代 20代	2015年 12月12日
データ Y2	F N	女性 女性	20代 20代	2015年 12月12日
データ Y3	S W	男性 男性	20代 20代	2017年 5月2日
データ O1	K C	女性 女性	60代 60代	2016年 11月14日
データ O2	H C	女性 女性	60代 60代	2016年 11月7日
データ O3	N O	男性 男性	60代 60代	2017年 6月26日

表2のように、全てのデータは友人関係にある者の会話である。

会話調査時間は1組につき30分間である。話者は実験室で二人だけで会話し、ICレコーダー(ICD-BX122、ソニー)で録音した。調査者(筆者)は、調査の最初に「30分間、自由に話してください」と指示し、その後退室している。

会話データを文字化するには、次のような記号を使用している。

- 。 文の終わりにつける。
- 、 文の中で語や句の後につける。
- ? 疑問の終助詞や語尾上げなどによる、疑問の意味をもつ発話につける。文末には「?。」、文中で倒置疑問になっている場合には「?、」をそれぞれつける。
- … 文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるもの。
- (???) 聞こえない部分。
- [左角括弧は、二人以上の発話や音声が重なり始めた時点を示す。²
-] 右角括弧は、発話や音声が重なりが終了した時を示す。³
- = 2つの発話が途切れなく密着していることを示す。⁴
- (言葉) 聞き取りが確定できないときを示す。
- 【ポーズ】 1秒以下の「間」を示す。
- 《沈黙数字》 1秒以上で4秒未満の「間」は、沈黙として記し、隣の数字は沈黙の時間を表す。
- < > 笑いながら発話したものと笑いを示す。
- [説明] 漢字の読み方や状況などの説明。

また、会話データでは、発話の左端に「Y1000396W」、「O3000391N」のような発話番号を使用している。最初の2文字は本会話調査におけるデータ番号を表す。次の6桁数字「000396」または「000391」は発話を示す番号、そして最終のアルファベットは各発話者を示す記号である(上掲例では「W」または「N」)。

5. 分析

本章では、沈黙が挿入される統語環境を観察していく。まず、沈黙が挿入される直前にある言語単位（文、節、句、単語）によって分類し、さらにそれぞれにおいて品詞や形式によって下位分類する。

5.1 文の直後

本節では、文の直後で沈黙が挿入されるデータを分析する。

5.1.1 文+終助詞の直後

ここでは、文+終助詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。まず、(9)を見られたい。

- (9) Y1000265I [そうそう]。なんか、テスト勉強とかも、がっつりしないと=
 Y1000266O うん。
 Y1000267I =ダメなタイプだから
 Y1000268O うんうんうん。
 Y100269I ばって覚えられないね。[沈黙+動作:鼻づまり]なんか、技術とかあるのかな。
 Y1000270O ああ、あるのかな。《沈黙2.53》記憶力のね
 Y1000271I うん。

(9)では、Y1000270Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「ああ、あるのかな。」が来ている。このうち、「ああ、あるの」は文⁵であり、「かな」が終助詞である。従って、文+終助詞の直後で沈黙が挿入される。

一方、60代でも同じ統語環境に沈黙が挿入される。(10)を見られたい。

- (10) O3000391N いや、今の海響館は、す（息）…2千ほどかかるやろ。二割引きでも
 O3000392O あっおう後で、これ、やからこれに、海響館行けば別よ。
 O3000393N うんうん。
 O3000394O うん。いや、まあ、ごめんごめん、千円もかからんよ。《沈黙1.00》高速代はみんなで割るんやから。
 O3000395N うんうん。《沈黙1.00》

(10)では、O3000394Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「千円もかからんよ。」が来ている。ここでは、「千円もかからん」が文、「よ」が終助詞である。

5.2 節の直後

本節では、節の直後で沈黙が挿入されるデータを分析する。

5.2.1 名詞節の直後

ここでは、名詞節の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。まず、(11)を見られたい。

- (11) Y2000718N いや、なんか、早く寝ようと思っても寝れん (もん私)
Y2000719F あっ、N氏⁶起きてるよねえ。
Y2000720N 起きてるよー。
Y2000721F 2時3時くらいまでは、[バリバリ
Y2000722N [うん。 2時、2時、2時で寝る時《沈黙1.00》
あるし3時とか、昨日は、でも、《沈黙1.26》もうバイトして疲れたから
さっさ寝た1時、1時半くらい

(11) では、Y2000722Nで沈黙が挿入されるが、その直前に「2時で寝る時」が来ている。これは名詞節である。

一方、60代では同じ統語環境のデータは見られない。

5.2.2 連用修飾節⁷

ここでは、南 (1974) の観点によって連用修飾節を分類し、沈黙が挿入されるデータを分析する。南 (1974) では、連用修飾節にA類、B類、C類、D類という4つの種類を設定している。しかし、本稿の調査ではB類・C類の直後でしか沈黙が挿入されなかったため、これらに関するデータのみを挙げる。

5.2.2.1 連用修飾節のB類の直後

ここでは、連用修飾節のB類の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。まず、(12)を見られたい。

- (12) Y1000737I 熊本は、今度開催されるみたいで、行こうかなと思ってて
Y1000738O うんうん。《沈黙5.76》 そうやな。行ってみたら、《沈黙1.10》 行ったこと
ないもんなあ、県庁《沈黙1.30》
Y1000739I 結構申し込みー、が
Y1000740O うん。
Y1000741I 1か月前、2か月前とかから告知とか、申し込みとか、《沈黙1.00》あの
募集人数の制限とかがあったりするから、早めに見ておいたんがいいかも
しれんね。
Y1000742O はい。

(12) では、Y1000738Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「行ってみたら」が来ている。これは連用修飾節のB類である。

一方、60代でも同じ統語環境に沈黙が挿入される。(13)を見られたい。

- (13) O3000497O うん。えっと、下関湖で見ないけんのやろ？下関…湖、長府かな。《沈黙1.30》下関湖で多分、出るよな。(??)。
 O3000498N ううーん。
 O3000499O まあ、ええ、「下関」と入れて、《沈黙1.40》ええと、塩見？
 O3000500N し、塩見、ししし。
 O3000501O 表かいね？何かいね。
 O3000502N うん。

(13) では、O3000499Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「下関と入れて」が来ている。これも連用修飾節のB類である。

5.2.2.2 連用修飾節のC類の直後

ここでは、連用修飾節のC類の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(14) に例を挙げる。

- (14) Y3000371S せっかく頑張ってるのに
 Y3000372W いや、たぶん、ラストは結構人集まるみたい
 Y3000373S うー[ん。
 Y3000374W [二回しか行ってないけんわからんけど、《沈黙1.00》去年の
 Y3000375S うん。
 Y3000376W そのラストの公演は、結構人おって

(14) では、Y3000374Wで沈黙が挿入されるが、その直前に「二回しか行ってないけんわからんけど」が来ている。これは、連用修飾節のC類である。

一方、60代でも同様の統語環境のデータが観察できる。(15) を見られたい。

- (15) O3000212O で一、30人、あとスタッフが5人
 O3000213N うん
 O3000214O スタッフ5、6人おるやろ。《沈黙1.10》まあ。
 O3000215N 35
 O3000216O 35。やから、この町やとそうはんいじゃろうから。
 O3000217N うんー。そうやな。
 O3000218O バスが34じゃろ。乗れるんが、《沈黙1.10》ほいで
 O3000219N そして
 O3000220O あの一。
 O3000221N 別便、[別便が一
 O3000222O [(??)。車が一台か二台

(15) では、O3000218Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「乗れるんが」が来ている。これは連用修飾節のC類である。

5.3 句の直後

本節では、句の直後で沈黙が挿入されるデータを分析する。

5.3.1 名詞句の直後

ここでは、名詞句の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。

5.3.1.1 名詞+格助詞の直後

ここでは、名詞+格助詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(16) にデータを挙げる。

- (16) Y1000149O 時代によって
Y1000150I うん。
Y1000151O (??) なんか
Y1000152I 価値観が「変わっていくみたいな。
Y1000153O [そうそうそう。 変わっていくていうことは、やっぱり
戦争で、使われていた、「国歌が、《沈黙1.60》今では
Y1000154I [うん。 うん。

(16) では、Y1000153Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「国歌が」が来ている。ここでは、「国歌」が名詞、「が」が格助詞である。

一方、60代でも同じ統語環境に沈黙が挿入される。(17) を見られたい。

- (17) O3000374O まあ、払わんにゃいけんじゃろ。うん。
O3000375N うーん。
O3000376O うん。まあ、こんくらいか。高速代と
O3000377N あー。
O3000378O 飲み物と【ポーズ】
O3000379N うーん。
O3000380O 保険料と、《沈黙2.60》あとは、何があっかな。
O3000381N あと運転手の弁当代

(17) では、O3000380Oで沈黙が挿入されるが、その直前に「保険料と」が来ている。そのうち、「保険料」は名詞であり、「と」は格助詞である。従って、名詞+格助詞の直後で沈黙が挿入される。

5.3.1.2 名詞+副助詞の直後

ここでは、名詞+副助詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(18) を見られたい。

- (18) Y2000410F ふふふ〈笑い〉。まって
 Y2000411N おふくろの味は《沈黙3.10》絶対的な目分量だよ。ははは〈笑い〉
 Y2000412F そうだね。絶対的な目分量 [なんだろうね。
 Y2000413N [ふふふ〈笑い〉。

(18) では、Y2000411Nで沈黙が挿入されるが、その直前に「おふくろの味は」が来ている。ここでは、「おふくろの味」が名詞、「は」が副助詞である。

一方、60代では同じ統語環境に沈黙が挿入されない。

5.3.2 感動詞類⁸ + 終助詞の直後

ここでは、感動詞類 + 終助詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(19) にデータを挙げる。

- (19) Y2000407N でも、おふくろの味はおふくろ味じゃん？
 Y2000408F そうね、《沈黙1.20》じゃ、もうおふくろの味でいいや。
 Y2000409N ふふふ〈笑い〉。
 Y2000410F ふふふ〈笑い〉。まって
 Y2000411N おふくろの味は《沈黙3.10》絶対的な目分量だよ。ははは〈笑い〉。

(19) では、Y2000408Fで沈黙が挿入されるが、その直前に「そうね」が来ている。ここでは、「そう」は感動詞類であり、「ね」は終助詞である。従って、感動詞類 + 終助詞の直後で沈黙が挿入される。

一方、60代では同じ統語環境のデータは見られない。

5.3.4 接続詞 + 終助詞の直後

ここでは、接続詞 + 終助詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(20) に例を挙げる。

- (20) O1000869C 買い物 [不便でしょ。
 O1000870K [(? ?)。 うん。
 O1000871C だからね、《沈黙1.30》みんな帰ってこないそうですよ。
 O1000872K そうなんですよねえ。いや、あたし、いや、我が家も人のことは言えない。
 ねっ。田舎に家があって、それ今空き家になっているから…ほーん、だけ
 どほんっと。【ポーズ】 ねえ。
 O1000873C うーん。

(20) では、O1000871Cで沈黙が挿入されるが、その直前に「だからね」が来ている。ここでは、「だから」は接続詞であり、「ね」は終助詞である。

一方、この統語環境における沈黙は、20代には見られていない。

5.4 単語の直後

本節では、単語の直後で沈黙が挿入されるデータを分析する。

5.4.1 名詞の直後

ここでは、名詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。まず、(21)を見られたい。

- (21) Y2000680N ケンチキがいるんよ。《沈黙1.80》
Y2000681F チキン 《沈黙1.90》なんか、いつかピザとかすごい食べたいな。
Y2000682N そう、ピザ食べたーい。
Y2000683F ピザ食べたいよね。

(21) では、Y2000681Fで沈黙が挿入されるが、その直前に「チキン」が来ている。これは名詞である。

一方、60代では同様の統語環境のデータが見られない。

5.4.2 感動詞類の直後

ここでは、感動詞類の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(22)に例を挙げる。

- (22) Y2000267N シャべる。
Y2000268F うーん【ポーズ】シャべる。ふふ〈笑い〉。コミュニケーションンって〈難しいよね〉。
Y2000269N&F あはははは。〈笑い〉
Y2000270N そうね。
Y2000271F いや、でも、いま、難しいと思っているわけじゃないよ。あ、まって、でも、そっか、《沈黙2.27》こうやって、なんか、なんでもないわ。よく、なんか、うーん、《沈黙1.15》だから、なん、よく分からないことをずっとしゃべっていくんだなあ [私はとふと、ふと思ったよ。
Y2000272N [へへ〈笑い〉。 そうそうね。

(22) では、Y2000271Fで沈黙が挿入されるが、その直前に「そっか」または「うーん」が来ている。これらは感動詞類である。

一方、60代でも同じデータが見られる。(23)を見られたい。

- (23) O1000247C あの、そういう仕事 《沈黙1.10》一生に
O1000248K うん。
O1000249C の夢を

- O1000250K うん。
- O1000251C あのう 《沈黙1.00》「自分の夢を [実現できるような [本当にしたいことをしなさい]」って
- O1000252K [うん。 [うん。
うん。

(23) では、O1000251Cで沈黙が挿入されるが、その直前に「あのう」が来ている。これも感動詞類である。

5.4.5 終助詞の直後

ここでは、終助詞の直後で挿入される沈黙の例を取り上げる。(24) を見られたい。

- (24) Y2000448N ないでございますね。
- Y2000449F まだあるっちゃあるけど、ない、ね。みんなでもんね。だいたい。
- Y2000450N たしかに。
- Y2000451F よねえー。《沈黙1.60》まあ、そうねえ、ふふ 〈笑い〉。【ポーズ】
- Y2000452N ふふ 〈笑い〉。

(24) では、Y2000451Fで沈黙が挿入されるが、その直前に「よねえー」が来ている。これは終助詞⁹である。

一方、この統語環境における沈黙は、60代には見られない。

6. まとめ

第5章では沈黙が挿入される統語環境を記述してきたが、本章では、まず、沈黙の挿入する統語環境及び挿入回数をまとめたいので、統語環境の世代差を観察する。

6.1 沈黙の挿入する統語環境

沈黙の統語環境及び挿入回数は以下の表3ようになる。「統語環境」欄の記号「ノ」は上昇のイントネーションを表す。挿入回数の箇所では、沈黙が挿入されない位置は斜線で示す。

表3 沈黙の統語環境と挿入回数

統語環境		例	データ Y1	データ Y2	データ Y3	データ O1	データ O2	データ O3	
文の直後	文の直後		/	1	4	1	/	3	
	文?ノの直後		/	2	2	/	/	/	
	文+終助詞の直後	文+かな、な、ぞ、よね、か、かね、ね、よ、かいね、の	3	4	2	/	/	2	
節の直後	連用修飾節の直後	A類の直後	~て	1	/	1	/	/	
		B類の直後	~のに、~たら、~なら、~て	1	2	5	/	2	1
		C類の直後	~けど、~し、~たり、~が	7	1	3	/	/	1
	連体修飾節の直後		1	/	1	/	/	/	
名詞節の直後		/	1	/	/	/	/		
句の直後	名詞句の直後	名詞+格助詞の直後	名詞+の、で、から、が、に、と	2	2	3	/	/	2
		名詞+終助詞の直後	名詞+か、ね、かな	2	/	/	/	/	1
		名詞+副助詞の直後	名詞+は、って	1	1	/	1	/	/
		名詞+並立助詞の直後	名詞+とか、か	2	/	1	/	/	1
		代名詞+格助詞の直後	代名詞+を	/	/	/	/	1	/
		代名詞+終助詞の直後	代名詞+かな	/	/	1	/	2	/
		代名詞+副助詞の直後	代名詞+には、も	/	1	1	/	/	/
		代名詞+並立助詞の直後	代名詞+とか	/	/	/	/	/	1
	感動詞類句の直後	感動詞類+終助詞の直後	そう+ね、ああ+よねえ、えーと+ね	2	6	/	1	/	/
	接続詞+終助詞の直後		だから+ね	/	/	/	1	/	/
語の直後	名詞・形式名詞の直後	名詞の直後		1	3	/	1	5	
		形式名詞の直後	~他	/	/	/	/	1	
	副詞の直後		こう、もう、まじで、たぶん、要するに、やっぱり	/	2	3	1	/	/
	感動詞類の直後		うんー、そうか、うん、まあ、なんか、あやっ、あー、うんうん、ふーん、ぬん、うーん、そっか、そう、ふふふ、ふん、ん、あーっ、あのう、あれ、へー、おーん	11	12	8	6	2	2
	終助詞の直後		〇+よねえー	/	1	/	/	/	/
	接続詞の直後		でも、で、それに	/	1	2	2	1	/
	連体詞の直後		その	1	/	/	/	/	/
	助動詞の直後		~た	1	/	/	/	/	1

表3から以下のような観察ができる。

まず、文レベルでは、文+終助詞・文の直後という統語環境において、20代と60代の沈黙が共に挿入されるが、文?ノの位置においては、20代だけに挿入される。沈黙の挿入回数では、60代より20代の方が頻度が高い。

次に、節レベルでは、連用修飾節のB類・C類の直後で、20代と60代の沈黙が共に挿入されるが、それ以外の統語環境では20代だけに挿入される。そして、挿入回数では、60代より20代の方が頻度が高い。

また、句レベルでは、名詞+格助詞・名詞+終助詞・名詞+副助詞・名詞+並立助詞・代名詞+終助詞・感動詞類+終助詞という位置の直後で、20代と60代の沈黙が共に挿入されるが、それ以外の統語環境では、20代か60代のいずれかだけに挿入される。そして、挿入回数では、60代より20代の方が頻度が高い。

さらに、語レベルでは、名詞・副詞・感動詞類・接続詞・助動詞という位置の直後で、20代と60代の沈黙が共に挿入されるが、それ以外の統語環境では20代か60代のいずれかだけに挿入される。後者の場合、60代に比べ、20代の方が広範囲の統語環境を持つ。そして、挿入回数では、60代より20代の方が頻度が高い傾向にある。

以上をまとめると、沈黙が挿入される統語環境及び挿入回数には、20代と60代の間に違いがあることが分かる。また、統語環境の範囲に関しては、20代が60代を包含すると考えられる。それゆえ、この統語環境の違いは世代差であろう。

6.2 沈黙の世代差

前節では20代と60代の沈黙の統語環境について言及した。この統語環境の世代差を会話調査データごとに表3から抽出し図式化すると、図1のようになる。図1は沈黙の統語環境の包含関係を表すものである。

まず、図1から分かるように、沈黙の挿入される統語環境が20代と60代で包含関係を成している。つまり、文+終助詞、B・C類、名詞+格助詞、感動詞類の直後では、沈黙は20代と60代の両世代で挿入される。しかし、それ以外の統語環境は20代でのみ挿入される。すなわち、沈黙が挿入される統語環境は、60代では非常に限定されており、一方20代では、60代で現れる統語環境を含んだうえに、さらに多様であるということになる。

それでは、60代の統語環境はどのように限定されているのだろうか。60代に現れる統語環境は、前述の通り、文+終助詞、B・C類、名詞+格助詞、感動詞類の直後という4種類である。これらの統語環境に共通する点は、いずれも独立性が高い構成素であるということではないだろうか。例えば、文+終助詞はまさに文レベルである。B・C類は従属節の中では比較的独立性が高く、文に近いと判断されよう。そして、感動詞類は独立語文¹⁰を作ると考えられる。また、名詞+格助詞は言語単位としては句であるが、自然談話では、独立文として機能することもある。以上より、60代に現れる統語環境は、いずれも独立性が高い構成素（文または文に近いもの）だと言えらるのではないだろうか。

一方、20代の統語環境では、句や単語の直後における挿入頻度が高く、これらは相対的に文に近い要素とは言えないだろう。ただし、データY2、Y3では、文・文?ノの直後で挿入されるこ

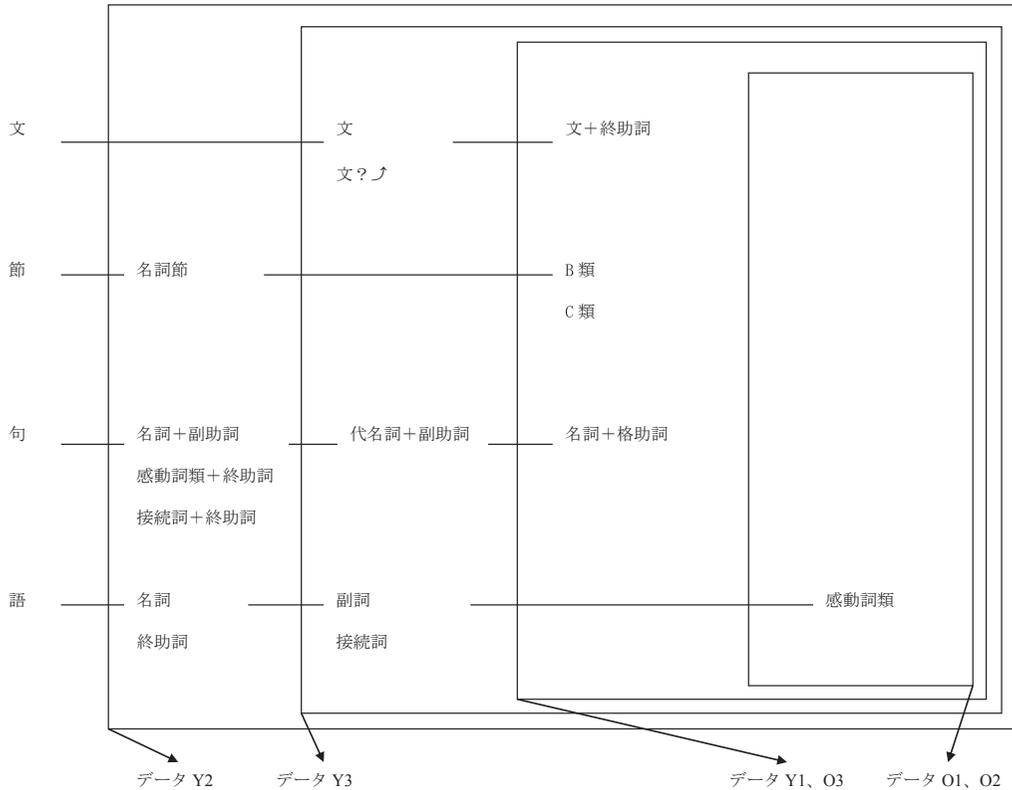


図1 統語環境の包含関係

ともある。この点から見ると、世代差があるとは言えない。
 以上をまとめると、20代と60代の世代差は次のようになる。

沈黙の世代差：

20代と60代の沈黙が挿入される統語環境は包含関係にあり、前者が後者を包含している。また、独立性が高い構成素の直後における沈黙の挿入傾向については、20代では挿入されにくい、60代では挿入されやすい。

以上から、20代に比べて60代は、直前にある構成素の独立性に対して、より敏感 (sensitive) であると考えられる。

また、全体的な頻度から考察すると、20代は60代に比べ、言語表現とともに沈黙 (非言語表現) を頻繁に使うという傾向が見える。そのため、20代にとって、沈黙はコミュニケーションにおける一つの手段として使われており、20代の談話における不可欠な表現であろう。従って、20代はあらゆる言語単位 (文・節・句・単語) に敏感 (sensitive) であると考えられる。20代では、60代のように直前に来る構成素の独立性だけに反応するということはないのである。20代も60代もシンタグマティックな関係には敏感であるが、反応する統語環境の属性が異なるのである。

7. 今後の課題

本稿では、談話における沈黙の統語環境および世代差を明らかにした。しかし、以下のようにいくつかの問題点が残っている。

まず、会話調査では、調査参加者は女性同士または男性同士であり、また友人関係であるため、性別差や関係による違いについては、考察できなかった。

調査対象世代については20代と60代だけを扱い、他の世代は考察できなかったため、どの世代に沈黙の世代差が現れるかについては分かっていない。

また、日常会話では、沈黙は次のような統語環境にも挿入される。

- (25) Y1000045O 月曜日はなにもないか？なにもない？本当に？↑〔無言+動作:鼻づまり〕
学割はもう取って財布に入れてあるから。
- Y1000046I おう。《沈黙》
- Y1000047O それだけはしている。ははは〈笑い〉。
- Y1000048I はやい。

(25) ではY1000046Iで話者Iが「おう」を発話した後に沈黙が挿入されるが、その後Y1000047Oで話者Oが「それだけはしている。ははは〈笑い〉。」を発話する。本稿と異なるのは沈黙が挿入されるところに発話権の交替が起こることである。このことについては本稿では当初から対象外としている。この沈黙が本稿で扱ったものと同じものであるのかどうか、今後分析する必要があるだろう。

さらに、沈黙が挿入される位置については、6.1の表3にあるが、その中には6.2の図1にある統語環境の包含関係に表されていないものがある。例えば、連体詞や名詞+終助詞などの直後という位置である。これらについてはさらにデータを収集し、統語環境を検証する必要があるだろう。

そして、なぜ世代によって沈黙の挿入における違いがあるかという問題について本稿ではまだ理解できない。

以上のことをさらに詳細に調べてゆくことが今後の課題である。

8. おわりに

本稿では、日本語談話において、20代と60代の沈黙が挿入される統語環境を分析した。その結果、20代も60代も、沈黙の直前に来る構成素の属性に反応するが、特に60代ではその独立性を参照することが分かった。一方、20代では60代ほど独立性を参照することはなく、言語単位であることを参照することが多いということが判明した。

ここで注意したいことは、沈黙の意味・機能との関連である。本稿では統語的なアプローチのみに絞ったが、それだけで解決できる問題ではないのかもしれない。例えば、統語環境が条件に合致すれば沈黙が必ず挿入されるかということ、必ずしもそうとは言えないだろう。また、逆も同

様であろう。どのような関連性があるかは、大きな問題である。

また、この問題を解明するためには、沈黙と同様の振る舞いをすると考えられる笑いやフィラーについても研究を進める必要がある。談話は様々な構成素が単純に等間隔で並んで構成されたものではない。第1章で述べた“切れ目”が存在するとしたら、それはこれらの(非)言語表現の挿入に影響を与えるものと考えられる。切れ目を観察するためには、統語的アプローチが必須となる。本稿の成果は、統語的アプローチの新たな一歩である。

【注】

- ¹ Milton Wayne(1973:129) は3つの文化における沈黙の意味を次のように指摘している。“(omission) the Japanese answers undicated that silence was a symbol of neutral waiting or passive acceptance os the other’s remark with a tendency to agree with other.”(cf.Milton Wayne (1973:128))
“The American responses showed a general emotional attitude toward the interpretations of silence: 1. Sorrow; 2. Critique; 3. Obligation; 4. Regret; 5. Embarrassment.”(cf.Milton Wayne (1973:129))
“The Australian responses were similar to the Americans’ in most cases (omission).”
- ² これらの記号は串田ほか (2005:xii) のものを用いた。
- ³ この記号は串田ほか (2005:xii) のものを用いた。
- ⁴ 筒井 (2012:346) の記号を用いた。
- ⁵ この部分は文から終助詞を除いた部分、即ち命題(に近い)部分であるが、本稿では文末の終助詞に注目するため、暫定的に文としておく。
- ⁶ 「N氏」は個人情報保護の観点から仮名にしてある。
- ⁷ 南 (1974: 114) は「文におけることからの側面から陳述の側面に至るまでのいくつかの段階を明らかにするためには、その手がかりとしてなんらかの言語上の事実をつかまえなければならない。そのためにここでは(中略)いわゆる従属句の内部構造に注目したいと思う。なぜ従属句の内部構造に目をつけるかという、一口に従属句といっても、それらを構成している諸要素の現れ方にはいろいろのものが、句内部におけるそれらの要素の共存関係が、一般の文の構造上の段階を知るための手がかりを提供すると考えられるからである(南1964b)。」と述べている。連用修飾節の分類については、南(1974:121-134)の考え方により、次のようになされている。

Aの類：～ながら(継続)、～ての形の中のあるもの、～つつの形の中のあるもの、動詞の連用形を重ねたもの(のみのみ、ふりかえりふりかえり)、形容詞・形容動詞の連用形で終わるもの

Bの類：～ので、～たら、～ても、～と、～なら、～のに、～ば(条件的な意味)；～ての形のもの(理由・原因)；～ながら(逆接)、～つつ(逆接)；～ての形のもの・用言の連用形で終わっているもの(継起的または並列的な動作・状態)；～ず(ずに)、～ないで(打ち消し)

Cの類：～が、～から、～けれど(けれども、けども、けど)、～し、～ての形のもの(～まして)や連用形で終わるもの

Dの類：述語的部分：命令(肯定または否定=禁止)の形、断定や疑問などを持った終助詞、問投詞のついた形など

⁸ 感動詞類には、感嘆詞、応答詞、フィラーなどが含まれる。

⁹ 本稿の「よねえー」は聞き手に承認を促す機能を持つため、感動詞類とも考えられる。ここでは形式上から暫定的に終助詞と考えておく。

¹⁰ 高橋(2005:175)によると、「感動詞は、独立語という文の部分をつくるだけでなく、1語だけで独立語文を作ることも、その基本的なしごとのひとつなのである。」という。

【参考文献】

- 穎瑞馬(2014)「疑問文の文末表現の使用に関する一考察」『北海道大学大学院文化研究科研究論集』第14号, pp.173-186
- 海木延佳・匂坂苦典(1996)「局所的な句構造によるポーズ挿入規則化の検討」『電子情報通信学会論文誌』第93号, pp.1455-1463
- 串田秀也ほか編(2005)『活用としての文と発話』ひつじ書房
- 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一(1990)『ケー

- スタディ 日本語の文章・談話】おうふう
- 杉藤美代子 (1985) 「句読点と、発話における連続と区切り」『大阪樟蔭女子大学論集』第22号, pp.1-7
- 杉藤美代子・大山玄 (1990) 「既読におけるポーズと呼吸－息継ぎのあるポーズと息継ぎのないポーズ」『音声言語IV』近畿音声言語研究会, pp.205-217
- 重橋のぞみ (2017) 「大学生における沈黙に対する捉え方尺度の作成」『福岡女学院大学』第18号, pp.19-29
- 高橋太郎 (2005) 『日本語の文法』ひつじ書房
- 高村めぐみ (2015) 『日本語の談話におけるポーズの研究』勉誠出版
- 筒井佐代 (2012) 『雑談の構造分析』くろしお出版
- 花村博司 (2015) 「日本語の会話における話題転換表現－新出型・再開型・前提提示型という話題転換の型による使いわけ－」『社会言語科学』第18巻1号, pp.75-92
- 平井昌夫・徳川宗賢 (1969) 『方言研究のすべて』至文堂
- Hirouchi Hiroko (1996) "Japanese Silence - From the Interpretation of the Contemporary Japanese Youth -," *Japanese Language and Culture*, No.22, pp.181-205.
- 堀このみ (2011) 「大学生男女の「沈黙」がコミュニケーションに与える影響－初対面同士の会話に注目して－」『東京女子大学言語文化研究』第20号, pp.105-121
- Milton Wayne (1973) "The meaning of Silence in Conversations in Three Cultures," *Patterns of Communication in and out of Japan*. Ed. ICU Communication Student Group, pp.127-130.
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
- 峯松信明・片岡嘉考・中川聖一 (1995) 「講演調の話し言葉に対する分析」『情報処理学会研究報告』第100号, pp.39-46
- 村上恵・熊取谷哲夫 (1995) 「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』62, pp.101-111
- 山崎敬一・江原由美子 (1993) 「沈黙と行為－規範と慣行的行為－」『ソシオロギス』No.17, pp.57-78
- Wong Ngan Ling (2005) "Communicative Silence in the Cybersociety of Japan," *Graduate School of Language and Cultures, Nagoya University*, Ph.D.thesis., Kou No.6421, pp.1-286